

## 外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

## 1. 基本情報

平成29年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 小田 敏三	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	<a href="http://aizuvaichi.or.jp/">http://aizuvaichi.or.jp/</a>
市所管課	文化政策課	電子メール	<a href="mailto:aizu-81@athena.ocn.ne.jp">aizu-81@athena.ocn.ne.jp</a>
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年 5月 8日 (平成22年12月22日公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名 ①			事業概要				
會津八一記念館管理運営事業			會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資することを目的に、會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、及び展示(業務仕様書より)する。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
公益事業	受託事業	支出額	千円	43,265	49,948	45,870	45,192
活動指標・成果目標			単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
年間入館者数	計画	人		8,000	10,000	10,000	8,000
	実績			10,804	8,332	7,010	
年間入館料	計画	千円		3,000	3,000	3,000	3,000
	実績			特別展2,727・常設展1,780	3,141	2,598	

事業名 ②			事業概要				
特別展(究極の趣味人ー會津八一vs川喜田半泥子)			八一と同時代に活躍した陶芸家・川喜田半泥子との2人展を、石水博物館(三重県津市)との所蔵品交換展として開催。生涯一度も会うことはなかった二人が互いの作品に心酔し、作品交換と76通の往復書簡のみの交流を続けた。展覧会は、石水博物館所蔵の八一の書画作品や二人の往復書簡、それぞれの油絵、俳画、墨蹟、焼き物、川喜田家旧蔵美術コレクションなどを紹介した。書簡を通じた粋な交流を物語る展示品の数々、新潟では初めて半泥子の茶碗や川喜田コレクションを展示したこともあり、入館者は3,000人を超えた。大いに満足してもらえた様子がアンケートからも分かった。半泥子の多彩な趣味と個性豊かな作品に来館者が魅了されたと思われる。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	6,230	1,930	4,677	4,000
活動指標・成果目標			単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
入館者数	計画	人		3,000	3,000	3,000	3,000
	実績			4,276	2,296	3,031	

事業名 ③			事業概要				
文芸講演会事業			特別展関連では、茶道武者小路千家の千宗屋氏を招いた。千氏は、本阿弥光悦と川喜田半泥子の焼き物づくりの中に流れる「数寄の精神」や、半泥子と心を通わせた八一の美の世界を独自の視点で説いた(28年8月)。春の企画展では新潟日報読者文芸欄の短歌選者・高野公彦氏。新潟県民の投稿作品の選者としての経験から「風土と短歌」について語り(4月)、俳人蒲原宏氏は若い頃に接した會津八一の思い出をユーモアたっぷりに語った(5月)。秋は八一の研究テーマ「東洋美術」に絡めて、元正倉院事務所長の阿部弘氏からは正倉院の役割について興味深い話を聞いた(10月)。冬の展示「八一と刻字」展に合わせた中国古代文字研究家の松丸道雄氏の「刻字」についての講演は、父東魚氏と八一の関わりにも話が及び聴衆の関心をひいた(29年3月)。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	760	400	750	700
活動指標・成果目標			単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
開催数	計画	契約		5	10	6	8
	実績			12	8	8	
聴講者数	計画	契約		1,500	1,500	1,500	1,200
	実績			1,410	1,099	909	

事業名 ④			事業概要				
販売事業			會津八一の「学規」割引セールは毎年度実施。28年度は八一没後60年で、Tシャツの特別割引セールを実施した。「学規」をデザインした一筆箋が好評販売中だ。年度末には扇子の企画をまとめた(29年度に販売)				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
収益事業	自主事業	支出額	千円	1,528	4,054	1,873	3,000
活動指標・成果目標			単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
年間販売額	計画	千円		3,000	3,000	3,000	2,390
	実績			2,601	2,196	1,728	

事業名 ⑤			事業概要				
普及活動事業①写真コンテスト②講演・出前講座			<p>①写真コンテスト＝応募は過去最多の187点。第10回の節目ということで審査委員長の浅井慎平氏からも2点出品していただいた。入賞入選作品展(28年12月～29年3月)では第1回～9回の道人賞作品も併せて展示した。当館で展示後、早稲田大学、6月いかるがホール(奈良県斑鳩町)と奈良県立図書情報館(奈良市)での巡回展示を終え、順次県内外(中村屋サロン美術館＝東京・新宿、京都三千院、高松市)で開催を予定。</p> <p>②出前講座＝市が窓口となっている市政トーク便や中学・高校の修学旅行の事前学習で普及につとめている。新潟日報カルチャースクールからも講師派遣の養成があった。館長や学芸員には県内外からの講師依頼も増えている。</p>				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	2,386	2,578	2,483	2,500
活動指標・成果目標			単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
「八一の歌を映す」写真コンテスト 応募点数	計画	点		100	110	120	180
	実績			107	145	187	
館長・学芸員の出前講演会、講座 回数	計画	回		10	10	13	13
	実績			15	13	13	

## 3. 組織等の状況

## (1) 役職員数の状況

(単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	5	5	5	5
常勤	3	3	3	2
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	3	3	3	2
他団体からの派遣				
非常勤	2	2	2	3
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	2	2	3
見直し等の取組み				

## (2) 職員の状況（市派遣職員を除く。）

(単位：人)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
職員の状況	管理職	2	2	2	2
	一般職	3	3	3	3
	合計	5	5	5	5
年齢構成	20代以下				
	30代	2	2	1	1
	40代			1	1
	50代	1	1		
	60代以上	2	2	3	3
	合計	5	5	5	5

## (3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算)
報酬・給与等	20,489	20,947	20,962	20,658
内 市職員分	0	0	0	0
役員	0	0	0	0
常勤				
内 市職員分				
非常勤				
内 市職員分				
職員	20,489	20,947	20,962	20,658
常勤	13,137	13,575	13,694	10,512
内 市職員分				
非常勤	7,352	7,372	7,268	10,146
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	4,250	4,525	4,565	5,256
見直し等の取り組み				

## (4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系		有 予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

## 4. 財務の状況

## (1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
一般正味財産増減の部	経常収益	56,374	56,978	52,243
	基本財産運用益	3,185	3,185	3,186
	特定資産運用益	4	3	4
	受取会費			
	事業収益	49,541	50,865	46,248
	自主事業収益	4,671	4,617	3,775
	受託事業収益	44,870	46,248	42,473
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	3,644	2,925	2,805
	経常費用	57,321	53,431	52,238
	事業費	53,984	51,323	50,564
	公益目的事業費	45,370	42,762	42,066
	収益目的事業費	3,276	3,115	2,987
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	5,338	5,446	5,511
	管理費	3,337	2,108	1,674
	評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 947	3,547	5
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	▲ 947	3,547	5	
経常外収益	0	0		
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	▲ 1,017	3,477	▲ 65	
一般正味財産期首残高	37,752	36,735	40,212	
一般正味財産期末残高	40,212	40,212	40,147	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金	0	0	
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額	0		
	指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高	241,936	241,936	241,871	

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲) 人件費	20,489	20,947	20,962
役員分			
職員分	20,489	20,947	20,962

## (2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
資産の部	資産の部合計	246,815	256,772	255,572
	流動資産	13,569	22,514	20,527
	現金預金	5,169	11,502	8,855
	未収金	8		4
	有価証券			
	その他流動資産	8,392	11,012	11,668
	固定資産	233,246	234,258	235,045
	基本財産	201,430	201,284	201,137
	特定資産	27,238	28,418	28,358
	その他固定資産	4,578	4,556	5,550
	有形固定資産	4,548	4,526	5,325
	無形固定資産	30	30	225
	その他投資等			
負債の部	負債の部合計	8,356	14,836	13,700
	流動負債	2,532	7,836	5,963
	短期借入金			
	その他流動負債	2,532	7,836	5,963
	固定負債	5,824	7,000	7,737
	長期借入金			
その他固定負債	5,824	7,000	7,737	
正味財産の部	正味財産の部合計	238,460	241,936	241,872
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	36,736	40,212	40,148
	代替基金			
その他一般正味財産	36,736	40,212	40,148	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		246,816	256,772	255,572

## (3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
市財政支出等の合計	48,540	50,028	45,950
補助金	0	0	0
事業費補助金			
運営費補助金			
設備投資に係る補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	48,460	49,948	45,870
内 随意契約額※	48,460	49,948	45,870
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

※ 随意契約額とは、市との一者随意契約による委託料及び非公募による指定管理者料をいう。

(市財政支出等がある場合) 目的, 内容, 必要性, 増減理由等

--

## (4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
純資産	238,460	241,936	241,872
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拋出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	238,460	241,936	241,872

## 5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

## （1）財務の健全性

指標		平成26年度	平成27年度	平成28年度
経常損益		▲ 947 千円	3,547 千円	5 千円
自己資本比率	純資産	96.6 %	94.2 %	94.6 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	535.9 %	287.3 %	344.2 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	95.5 %	94.1 %	94.2 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産	40,060 千円	43,536 千円	43,472 千円
	－資本金（基本金）			
公益目的事業比率	公益目的事業費	87.3 %	89.1 %	90.0 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.19	0.18	0.17
	遊休財産額			
資金運用				
基本財産としての 有価証券の保有	● 有	→	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。	○
	○ 無		② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。	○
	③ 資金運用に関する情報収集に努めている。		○	
	④ 元本割れのリスクはない。		○	

## （2）団体の自立性

指標		平成26年度	平成27年度	平成28年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	86.1 %	87.8 %	88.0 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

## （3）経営の効率性

指標		平成26年度	平成27年度	平成28年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	9,908 千円	10,173 千円	9,250 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	▲ 189 千円	709 千円	1 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	5.8 %	3.9 %	3.2 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	667 千円	422 千円	335 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	36.3 %	36.8 %	40.1 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
● 有	計画名称 [ 會津八一記念館中期運営計画・原案策定中 ] 計画5年 平成 28～33
概要・数値目標	
<p>残念ながら策定に至っていない。そうした中で一つの目安となるのが4年後の2021年、會津八一生誕140年の年だ。八一も既に歴史上の人物となっているといえる。接したことのある人物もごくわずかとなっている現状で、どうやってその業績を伝え、そして知ってもらうか。その節目をどう生かすか具体的は何をなすべきか。実は、姉妹協定を結んで協力関係にある早稲田大学會津八一記念博物館から、八一の名を冠した学術論文募集の構想が持ち上がり、當會津八一記念館にも協力の要請が来ている。書や短歌に限らず幅広く学問・芸術を研究する人を対象にしようというものだ。実現すれば生誕140年を記念するにはふさわしいものとなるが、具体的協議はまだだ。さて、28年度は入館者が7,010人で27年度を1,300人余り下回った。とはいえ、4回の展示のうちの一つ「特別展」で3,031人と、全体の4割を超す入館者を記録したことは、企画内容次第で人は入るとい証左だろう。企画内容を磨き上げ、ただ「見る」だけの展示から、なんとかそこに参加型体験型企画を付随させて来館者を増やし、とにかくまず8,000人台を目指す。次に若い世代への浸透だ。そのためにはとりわけ新潟市内中学校生徒に記念館を訪れてもらえるよう、具体的には「巡検」という見学活動の場所に記念館を選んでもらうよう働きかける。ただ、残念ながら巡検箇所は生徒の自発性(興味)によるところが大きいので、来館校は今のところ10校内外にとどまっている。これを増やす。そのためには隣接のいがた文化の記憶館を目当てに訪れる学校・生徒もあるのでその見学者を「共有」することを心がける。中学・高校には奈良への修学旅行を勧めることが、八一とかの地との関わりを知ってもらうこと八一の業績を知ってもらうことにつながる。それは記念館に来てもらうことにつながる。しかし、修学旅行の多様化の中、「奈良京都」だけが旅行先ではない。県外への普及では、幸い28年度は交換展(三重・石水博物館)が実現し、徳島文学書道館では八一展が好評だった。これも相手あってのことで機会あれば受け入れ実現させる。写真コンテストの入賞作品の巡回展示も普及に役立つかと考えられる。県外では東京・奈良以外にも会場を確保する。幸い29年度は京都三千院、四国高松市の施設で実現の見通しだ。京都市内に一基もなかった歌碑がようやく建立のめどが立ってきた。京都との関係を強め深めるためにもさらに2基3基と増やす方策を考える。平成27年9月の「東アジア書のシンポ」が成功した。海外の美術館や大学で會津八一展開催を目指したいが、まだまだ希望段階。奈良・京都との交流を定期的の実施するために関西地区における団体(関西秋声会=仮称)の設立が求められるが結成に至っていない。講演会は特別展1回・企画展3回の内容に合わせて、その都度1～2回実施している。28年度は八一没後60年ということで映画のDVD上映会と同時に開いたものも含め計7回実施。計726人を動員した。開催回数が増やせるかを考えつつ、1,000人を目標として掲げたい。収蔵作品を充実させるために八一の遺族関係者や八一と交流のあった文化人らと緊密な関係を築き、寄託・譲渡といった受け入れを進める。着手半ばの歌碑ガイドブック製作を進める。</p>	
未策定理由	
<p>ここ2、3年で奈良に歌碑がいくつか建立され、「東アジア文化交流都市」関連のシンポ(27年度)、會津八一没後60年関連企画(28年度)で濃密な事業が続き、4人の職場ではじっくりたたき台を議論する余裕がないというのが実情。昨年「會津八一記念館のこれまでと今一 中長期計画に代えて」(A4紙4枚)を提出したが、今回はこれに手を加えて現在までの状況と今後の見通しとする。ご批判、ご指導をお願いしたい。</p>	

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
有	就任時期 年度～ 依頼先職種 [ ]	● 有	依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種 [ 税理事務所 ]
● 無			無

③ 事務処理改善の取組み	
● 有	取組内容 平成28年度～ <p>入館者へのサービスを向上させた。隣接「いがた文化の記憶館」とは窓口の分かりにくさがあったが、表示や仕切り器具の設置で改善。大幅な在庫をかかえる商品を割引セールと称して格安で販売した。</p>
無	

④ 人材育成の取組み	
● 有	取組内容 平成17年度～ <p>市や民間の生涯学習事業(市政トーク便、観光事業=歌碑巡りなど)の講師や解説役を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげた隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、関連人物や周辺事項についても幅広い知識を習得してきている。それらが、會津八一の業績普及につながっている。上部団体の研修会にできる限り参加したり、県外類似館の見学で「見せ方」「企画の仕方」を学んでいる。学術誌や郷土誌からの依頼にこたえ、原稿を寄せている。</p>
無	

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況			
● 有	策定期間 平成12年度～ 規定名称 [ 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 ]	団体ホームページ掲載	● 定款等 21年度～
無	未整備理由 役員は無報酬		● 事業内容 21年度～
			● 役員名簿 21年度～
			● 役員報酬 年度～
			● 事業報告 21年度～
			● 正味財産増減計算書 21年度～
		● 貸借対照表 21年度～	
		● 事業計画書 21年度～	
		● 予算概要 21年度～	

改善対応区分
A:改善対応済(引き続き継続して実施するもの含む)
B:改善の取組の効果が始まっている
C:改善の取組に着手
D:改善の取組に向けて検討中
E:今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【今後改善を要する事項とそれに対する取組み】の改善状況

今後改善を要する事項とそれに対する取組み							
特別展を中心とした展示の充実、八一の書と歌、その他の研究で残した業績の普及							
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		特別展は、長年の希望でもあった三重県の石水博物館との交換展という形で実施した。石水博物館が所蔵する陶芸家川喜田半泥子の作品、江戸時代から続く川喜田家の貴重なコレクション、銀行家でもあった半泥子の作陶茶碗といった新潟ではほとんど初めてという作品の数々は大いに関心呼び、年度入館者の4割以上を占める3,000人余りが訪れた。また、徳島県立文学書道館では初めて八一展を開き、中国四国地方のファンからも好評だったと、同書道館担当者から報告があった。					
今後の具体的な改善・対応方針等		今後も、他館からの働きかけやこちらの希望が実現できるよう、連絡を密にしていく。所蔵作品だけでは展示の幅が限られるため、企画に基づいて他館からの八一関連作品を借り受け、展示に生かす。					
① 今後の改善・対応	実施事項		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	八一祭、館長講座		特別展「究極の趣味人～會津八一vs川喜田半泥子	會津八一と禪。関連で京都大徳寺の泉田玉堂師の講演会(八一祭)			
	写真コンテスト		第10回の作品募集と県内外における巡回展	第11回写真コンテスト			
	活動指標・成果目標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	成果指標	特別展	計画	究極の趣味人	會津八一と禪		
実績			実施。3,031人				
写真コンテスト		計画	第10回の実施と作品巡回展				
		実績	実施済み。巡回展は29年度。現在巡回中				

今後改善を要する事項とそれに対する取組み							
歌碑・揮毫碑の建立							
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
前年度の改善・対応内容		京都での歌碑建立は、相手の東寺との交渉（建立箇所選定、東寺による国や関係自治体への申請）に時間がかかり、28年度内に完成しなかった。					
今後の具体的な改善・対応方針等		引き続き作業を進め、29年度内に除幕する。当該寺院との交渉における問題点や留意点が明らかになったので、今後京都市内で新たな建立を進める場合、交渉技術として役立て、スムーズな作業をすすめる。					
② 今後の改善・対応	実施事項		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	歌碑建立		京都市内の東寺での歌碑建立	京都市内の東寺での歌碑建立			
	活動指標・成果目標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	成果指標	歌碑建立	計画	東寺での建立	東寺での建立	京都市内でさらに増設	
			実績	協議が停滞			
		計画					
		実績					

今後改善を要する事項とそれに対する取組み							
墨書というモノトーンの地味な作品、短歌という愛好者の限られた分野の文学。それらを材料に一般市民を引き付ける展示を企画するのが宿命づけられている。展示は「みずもの」といわれ、いいものをそろえたと思っても入館者数に反映しないこともある。斬新な切り口とテーマを追求し、展示に結び付けていく。そのためには職員間でアイデアとなる材料を出し合う場を今以上に設ける。							
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		陶芸家川喜田半泥子の茶碗など紹介した特別展では、期間中、展示茶碗の銘（作者の付ける名前）のない茶碗について、入館者からその茶碗にふさわしいと思われる名前を募集して、展示への関心呼び起こした。96の銘が寄せられた。八一の教え子の映画監督小林正樹を取り上げた展示では、映画のDVDを上映し変化を付けた。また、板や看板に字を彫る「刻字」がテーマの展示では、体験講座を開いて楽しんでもらった。					
今後の具体的な改善・対応方針等		参加型、体験型は入館者の関心と呼ぶ。できるだけそうした企画を立てたいが、展示内容によっては難しい場合もある。書作品が展示の中心だからといって館内で書道教室というわけにはいかない。展示も1年1年計画を立てるのが精いっぱい。その都度アイデアが出すことが求められる。					
③	今後の改善・対応	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			特別展期間中の「銘」募集。	出来上がった作品だけではなく、完成に至るまでの舞台裏、準備（試行錯誤）の様子を見せる企画			
成果指標	活動指標・成果目標	計画	刻字体験講座	特別展は、禅をテーマに生き方を考えるきっかけに結び付けたい			
			実績	茶碗の銘募集	制作までの舞台裏を見てもらう展示		
			計画	96通の応募			
			実績	刻字体験講座	寄贈を受けた作品のお披露目展(夏・同窓の式場麻)		
			定員制28人参加				

今後改善を要する事項とそれに対する取組み							
市から貴重な財源を預かっているという意識を強め、経費の節減を心がけるのは言うまでもない。それに加え、在庫となっている商品・図録等の整理・管理を進め、圧縮・スリム化を図る。（販売促進とともに現金化していくことを意識する）							
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		前年度に引き続き指定管理料を返還した。在庫の整理という点から、Tシャツを割引販売したり、図録のセット購入価格を設けたりしたが、大幅な売り上げには結びつかなかった。1冊400円の一筆箋を作った。静かな人気となっている。					
今後の具体的な改善・対応方針等		29年度は予算において経費カットを要請されていることもあり、引き続き節約に努め、結果として指定管理料を返還するくらいにしたい。商品は在庫整理と同時に、新商品を開発し売り上げを増やしたいが、商店街や観光地に店を開いているわけでもなく、簡単に品ぞろえを増やすわけにはいかない。アソートで希望が多くなおかつ買ってもらえそうな商品に絞って製品化していく。					
④	今後の改善・対応	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			経費節減	指定管理料の適切な使用	指定管理料の適切な使用		
成果指標	活動指標・成果目標	計画	在庫圧縮、商品開発	割引販売、新商品開発			
			実績	指定管理料の適切な使用	経費カット		
			計画	一部を返還			
			実績	一筆箋商品化	扇子商品化		
			完成、販売	好評販売中			

今後改善を要する事項とそれに対する取組み							
次世代に會津八一の業績を伝えていくには、八一の生き方・魅力を知ってもらわなければならない。教育現場への働きかけを強め、授業や総合学習でとりあげてもらおうようにする。その手段・材料の一つとなる教材（伝記絵本）の製作を進める。							
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
前年度の改善・対応内容		中学校校長会で修学旅行に「奈良・京都」の選定を呼びかけ、事前学習の一つに奈良にゆかりの深い會津八一を勉強しに来てほしいと訴えた。巡検という形で館を訪れる生徒の増加に結び付いているようには思われる。伝記絵本だが、執筆を依頼した作者との話し合いが滞っており、進んでいない。具体的には、八一の何に焦点をあてて描くかの点で館と作者の思いが違い、その調整が済んでいない。					
今後の具体的な改善・対応方針等		伝記絵本については、予定した作者と再度協議へ。あらためて仕切り直し。					
⑤	今後の改善・対応	実施事項		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		関連書籍制作		伝記絵本	八一の短歌がモチーフの絵本づくりへの協力		
	成果指標	活動指標・成果目標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		計画	伝記本	絵本（奈良大仏奉賛会制作）	歌碑紹介ガイドブック作成		
			実績	停滞	完成		
		計画					
	実績						

今後改善を要する事項とそれに対する取組み							
対外的に築いた関係を大切に交流を促進しながら、国内外で八一展を開く可能性を探り実現に結び付ける。							
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		三重県津市の石水博物館との交換展を実施。八一作品が三重県津市で紹介された。また徳島県立文学書同館で八一展を実施。貸し出した作品は四国中国地方の八一ファンには新鮮な目で受け止めてもらうことができた。					
今後の具体的な改善・対応方針等		引き続き、他県の施設との関係を深めていく中で、八一の作品・資料が多く目の目に触れ業績が広く浸透していくようにする。					
⑥	今後の改善・対応	実施事項		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		八一展		三重県と徳島市で八一展	高松市でも「會津八一の歌を映す」写真コンテストの作品巡回展		
	成果指標	活動指標・成果目標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		計画	三重県で交換展	高松市で写真コンテストの作品巡回展			
			実績	実施			
		計画	徳島で八一展	京都三千院で写真コンテストの作品巡回展			
	実績		実施				

改善対応区分  
 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)  
 B:改善の取組の効果が始まっている  
 C:改善の取組に着手  
 D:改善の取組に向けて検討中  
 E:今は実施せず今後の課題とする

(2) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項							
後継者の育成・増員を検討しなければならない。							
改善・対応区分		A	B	C	D	● E	
前年度の改善・対応内容		新しい事務長が就任。兼任してい「にいがた文化の記憶館」業務は、ほとんど手が離れた。(学芸顧問として文書・原稿の手直し、展示の相談程度)					
今後の具体的な改善・対応方針等		増員は今のところ考えていない。					
今後の改善・対応	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	成果指標	活動指標・成果目標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
		写真コンテスト	計画				
			実績				
		写真コンテスト	計画				
実績							

改善指示事項						
引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。						
改善・対応区分		●	A	B	C	D E
前年度の改善・対応内容		写真コンテストは、審査委員長作品を初めて展示。また、過去の最優秀賞作品を一挙に展示した。展示内容に関連した体験講座を実施した。				
今後の具体的な改善・対応方針等		早稲田大学會津八一記念博物館の提案(学術論文募集構想)に協力し、広い学術分野における業績に対する注目度を高めていきたい。				
今後の改善・対応	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		写真コンテスト	第10回コンテスト。審査委員長・浅井慎平氏も出品予定	第11回コンテスト実施。巡回展会場の開拓		
	その他		学術論文賞創設への協			
	成果指標	活動指標・成果目標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		写真コンテスト	計画		巡回展会場に高松市と京都を追加	
			実績			
写真コンテスト		計画				
	実績					

改善指示事項							
中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。							
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
前年度の改善・対応内容		文化の担い手は若者との認識が大切と考える。中高生の中に會津八一ファンを育てるその芽を育成するため、中学校高校へのアプローチ方法を模索・確立する。その段階である。					
今後の具体的な改善・対応方針等		郷土の文化ひいては郷土の生んだ文化人會津八一を誇りに思えるよう、若い層への浸透・普及を図るべく、そのことを計画の柱の一つに今後の在り方を考えていく。					
今後の改善・対応	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	①長期計画作成の意義	5年後の會津八一生誕140年を見据え、事業展開において何が必要か職員の意識を統一する	生誕140年を意識してこれからの展示・事業計画を考える				
成果指標	活動指標・成果目標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	計画		生誕140年事業の構想立案				
	実績						
	計画						
	実績						

改善指示事項							
各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。							
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		収益事業において黒字化を目指しているが、大きな収益源の一つ鑑定会（鑑定料と認定書発行料）は、出品作品の多い少ないで収益に幅がある。これは主催者の手の届かない部分であり、いかんともしがたい。あとは商品開発とその販売で収益を上げるしかない。いわゆるヒット商品を出すのは難しい。					
今後の具体的な改善・対応方針等		公益事業会計では公益事業では利益を上げられないという制約があり、収益事業で利益を上げていくため商品開発や書籍づくりを進めていく					
今後の改善・対応	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	普及・発信活動	全国の歌碑を紹介するガイドブックを出版する。	小学生までの年齢を対象に八一の生涯を描いた絵本を出版する（28年度に着手）				
成果指標	活動指標・成果目標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	計画	歌碑紹介ガイドブック	伝記本				
	実績	着手するも、未達成	中断中				
	計画						
	実績						

## 7. 評価の結果

## 【団体の評価コメント】

<b>財務の健全性</b>	前年度に続き28年度も、市の指定管理料を返還した。額は約190万円。公益財団の事業は公益事業と収益事業に分けられるが、いわゆる「もうけてはいけない」公益事業において、28年度は若干の黒字となった。独自財源としてイベント基金（約500万円）、収蔵品購入基金（約560万円）を持っている。
<b>団体の自立性</b>	指定管理者として新潟市からの事業受託料が大きな財源であり、指導・助言のもとに活動しているが、展示をはじめとする事業のほとんどは財団で独自に企画・運営している。
<b>経営の効率性・適正性</b>	膨大な會津八一の作品と書簡、関連文化人の作品を収蔵しているが、展示企画内容によって他館や個人の八一関連作品を借りなければならない。作品を借りるのは費用も手間もかかるが、展示に厚みを持たせ関心を引き起こすことに寄与しているはずだ。同じ八一作品を扱いながらも、新しい切り口とテーマで展示を企画し、また、関連の文芸講演会では多くの人たちの興味関心にこたえる人選をし、入館に結び付ける努力をしている。奈良や京都など八一ゆかりの土地との交流で記念館と八一の対外発信にも力を注いでいる。書家や研究者などの専門家に八一作品の鑑定委員を委嘱し、鑑定料収入といった活動財源を確保している。
<b>その他</b>	
<b>総括的な所見</b>	
職員は4人（非常勤の館長を除く）、うち専門の学芸員が2人。少ない人数ながら年間の展示や関連行事をこなしている。収蔵品は八一の書画と、八一が文化人とやり取した手紙などに限られた中、学芸員の工夫と奮闘が光る。展示室が1つで、常設部分がないのが残念だが、その分、年4回の企画展は変化に富んだテーマのもと見せ方を工夫し、評価を得ている。展示に関連した講演会は、テーマは絵手紙であったり、正倉院であったりして書や短歌に限らない。他県の博物館・文学館との連携の機会も積極的に活用し、他館での八一展を実現させている。また、八一がやりとりした膨大な手紙を解読して活字に起こし、毎年、書簡集を発行している。この作業は専門の研究者にゆだねているが、後世に研究資料を伝えるという点で貴重な活動といえる。八一の短歌を縁として結ばれた奈良とは親密な関係を築いているのも特色の一つだ。多面的業績を残した會津八一を発信することで文化都市新潟を発信する役割を果たしている。	

## 【所管課による評価】

<b>現状に対する評価</b>	本市において初めて展示された作品が見られたこともあり、特別展の入館者数が目標を超えた。今後も魅力的な展覧会の企画、及び特に若い世代への積極的な広報等を進めていただきたい。
<b>課題及び改善すべき事柄</b>	少人数での施設運営となるため、情報の共有化により事務の効率化を図るとともに、人材登用計画を計画的に進めていただきたい。また、若い世代に対する會津八一の知名度向上にも注力いただきたい。
<b>今後の指導方針</b>	入館者数の減少が見られるので、入館者が参加・体験できる展覧会を企画するなど努めていただきたい。

## 【今後改善を要する事項とそれに対する取組み】

①	在庫を抱える商品の整理。収益事業の柱の一つ鑑定料収入は、持ち込まれる作品の多い少ないで、年によって上下するのでいかんともしがたい。もう一つの柱である商品販売はさまざまなオリジナル商品をそろえているが、爆発的に売れるものはない。発売以来、年月のたっているものは販売方法の工夫（思い切った安売り）でどんどんさばく。特にTシャツ、過去の特別展図録の処分を急ぐ。それと同時に新商品の開発を進める。
②	作業が中断している歌碑ガイドブック作成作業を急ぐ。平成12年までに建てられた歌碑のデータはあるが、それ以降に建立された歌碑データを整え、発刊のめどをつける。
③	

【総合評価】

概ね良好	● 改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
<b>総合的な所見</b>			
<p>・入館者数増に向けては、DVD上映など、職員のアイデアによる取組みは実施されているが、入館者数は減少しており、改善していない。</p> <p>・商品の在庫整理については、前年度決算との比較において、在庫は増加しており改善しておらず、販売が見込めない不良在庫（デッドストック）が懸念される。また、デッドストックがどの程度存在するか正確に把握おらず、在庫整理や管理の状況に問題がある。</p> <p>・中長期計画が未策定であり、早急に策定する必要がある。</p> <p>・赤字の解消については、一般正味財産増減額は若干マイナスであるものの、改善傾向にある。</p> <p>・少ない人員で年間の展示や関連行事をこなした上で、県外での八一展の開催や奈良の有名寺院等と交流を続けている点など、団体の事業活動の成果についての評価は適切であるが、費用対効果の観点での評価も必要である。</p> <p>・館長は隣接する「にいがた文化の記憶館」の館長と兼務しており、従事割合に応じて、給与の按分も検討すべきである。</p>			
<b>今後の取組みに対する評価、改善指示事項</b>			
<p>・商品の在庫整理と収入増加については、今後具体的に何をどの程度改善するのか、客観的な数値目標を設定して取り組む必要がある。</p> <p>・歌碑ガイドブックの作成については、発刊日の目標を明確にして取り組むべきである。</p> <p>・少人数での運営は、このままで良いのか検討が必要ではないか。</p> <p>・入館者の意見・要望に合わせた展示を企画できるよう、アンケート調査の回収率を上げるなど、入館者のニーズの把握に努める必要がある。</p> <p>・後継者の育成と増員については、団体の将来像によって必要となる人員の質と量が決まるため、中長期計画と整合する形で計画的に人材の確保や育成を進める必要がある。</p> <p>・商品の在庫整理を適切に進めるためには、不良在庫に対する評価基準を明確化し、決算時に不良在庫が残存する場合は、評価の切り下げを行うなど適切な会計処理を行う必要がある。</p>			

【総合評価を受けての団体としての決意】

平成30年2月20日 理事長 小田敏三

指摘される商品の在庫だが、そのうち展覧会図録や書簡集は販売価格と製作費の兼ね合いで製作部数も多く、結果的にそれが在庫になってきた。（ただし、学術研究用の資料であり、一般商品のような不良在庫ではない）。今後はこれにかかる費用は普及活動費としてとらえ（逆ざやもやむを得ず）、保存用、普及活動用（贈呈）と販売見込み量とを勘案して製作したい。これまでの在庫は、割引販売等で現金化を目指す。処理は税理士の指導を仰ぐ。歌碑ガイドブックは、旅行ガイドブックの要素を持った体裁を構想したが、現有マンパワーで盛り込む内容を精査し（製作可能な体裁を再検討し）、まず冊子といった形で30年度中を目途に製作を目指す。アンケートは数パーセントの回収率で推移しており、要望把握のため1パーセントでも上げるべく回答者一人一人に記念品贈呈などでお礼の気持ちを表して答えやすい環境をつくりたい。人員についての指摘は重く受け止める。

【総合評価における改善指示事項への対応方針】

改善指示事項							
今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。							
今後の改善・対応	今後の具体的な改善・対応方針等		現アンケートは、要望欄は設けてはいるものの、年代や地域、来館回数など観覧者の実情を知るための項目が主なので、具体的な意見・要望を導きだせる内容になるよう工夫をする。回答は展示室そばの箱に入れてもらっているが、回答者全員に記念品を渡すなどの、回答への動機付けにより回収率アップをめざす。28年度平均4.6%、29年度展示別回収率＝春6.5%、夏7.3%、秋4.0%				
	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
		アンケート項目の手直しによる具体的要望を引き出す	設問項目の精査・検討	新しいアンケート用紙により、意見要望をつかむ	要望意見の展示への反映を目指す	要望意見の展示への反映を目指す	
	成果指標	回収率アップを図る		アップのための方策を検討・決定する	記念の品を渡して回答状況の改善を図る	要望への回答を館内掲示できるようにし、観覧者に「参加意識」を持ってもらう	
		活動指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		アンケートの回収率向上	計画		回収率7%	回収率8%	回収率9%
実績							
		計画					
		実績					

改善指示事項						
在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。						
今後の改善・対応	今後の具体的な改善・対応方針等		図録・往来書簡集等の制作は、會津八一に関する資料の調査研究の成果であり後学のために必要なものである。しかし一般向では無い為、毎年在庫が蓄積されている。販売単価を考えある程度の部数を制作してきたが、今後は、制作部数を抑える方向を考えたい。現在の在庫については顧問税理士と相談し適切な会計処理を考える。一方、収益事業で利益を得るため			
	実施事項		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	制作部数をみなおす			特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し
	在庫の有効利用		在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用
	活動指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	販売促進	計画		前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増
		実績				
	既存在庫削減	計画		毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減
		実績				